

資料2. 中学校社会科におけるパフォーマンス課題の作品例と長期的ルーブリック

Cf. 三藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか』日本標準、2010年)

①②パフォーマンス課題「明治時代の新聞の社説」の作品例

① 社会科基礎ワークシート NO34

時は1900年、みなさんは明治時代の新聞社の社員たちであり、社会が大きく変化してきた明治維新を記念する社説を書きます。社説は、当時を生きる人々（政治家、産業界の人々、文化人、一般の人々）に向けた新聞社からのメッセージです。話し合いの内容や今までの学習をふり返り、今後の改革のあり方について重要だと考えることを提案してください。

この議題と時間内におさえるようにまとめよう

### 政治、教育、産業…優先させるべきものは？

近代的な産業、内閣制度、教育…外国の様なものを取り入れた今、日本はそれをどう受け入れ、そしてよい国をつくることか、という選択を迫られている。具体的に今の日本の現状を視野に入れた日本の歩むべき道について自分なりに考えてみることにする

**選択肢1) 武力**  
「武力で日本を行使する」という考えはあまり望ましくない。国民の命を危険にさらすことになり、日本が強い軍隊を持つ武力で物事を解決させていく国とすれば、日本が受けにくく、世界の未来をも壊してけしこみにみられる。武力というものは、どなたか悲惨な事態を引き起こすものだから、今や日本が歩んで来た道を振り返る必要があるから、果たして武力で良い日本をつくり出せるのか、その疑問がある。

**選択肢2) 自由**  
「言論や自由が国を強くする」という考え。これはよく通じられる。教育を進めると第一に国民の力が増える。そして、平等に教育を受けさせることが国民に自由というものがあるという考えを国民達に定着させるべきだと改めて考えることができる。

**自分、教育を優先させる**  
へまだと思ふ。自由をうたう教育を取り入れて、皆が日本に誇りを持って、外国の様なものも学んでいく。政府は取り柄をいかにするか。それから武力で日本を強くするの考えをよめるべきだと思う。日本の国民皆が様々な知識を持って、近代の国と戦わなくても議論で解決する。この決断があるべき。

②

時は1900年、みなさんは明治時代の新聞社の社員たちであり、社会が大きく変化してきた明治維新を記念する社説を書きます。社説は、当時を生きる人々（政治家、産業界の人々、文化人、一般の人々）に向けた新聞社からのメッセージです。話し合いの内容や今までの学習をふり返り、今後の改革のあり方について重要だと考えることを提案してください。

この議題と時間内におさえるようにまとめよう

### 今の日本の発展には重工業が重要だ

今日本はアメリカやイギリスなどの諸外国に追いつけず遅れをとっている。この遅れを克服するために、日本は外国の文化や技術、法律などを取り入れ、日本独自の文化や技術、法律などであらざるものを作ることが必要だ。日本は、このままでは発展できず、追いつけず遅れをとる。追いつけることができるのだろうか。まず、重工業を優先して、日本が確実な外国に追いつくには工業と発展させるべきかと考える。

特に期待できるのは重工業だ。思えば、日本は日本の重工業は戦前からの日清戦争で清から賠償金をもとにして、かなり発展し、鋼を取り、八幡製鉄所のおかげで製鉄業は三十二年で発展を続けてきた。(下図参照)

また、石川島造船所では外国船の修理を請けおこなうようになった。日本の造船技術の発展をうかがい知れる。

このまま外国の文化や法律を真似し続けても、外国から見れば日本にたまたま

真似してはいるけれど、思われるだけでバカにされたら条約の残っている部分の改正もできなくなる。そのためにも、日本の力をほころぎ、示すべしである。重工業の発展と外国に見え、更に言えば造船業、製鉄業の発展は国力、軍事力、海運の発展にもつながり、まさに国力を豊かにすることになる。以上、以上まででまとめたい。

③パフォーマンス課題「国際シンポジウムで提案しよう！」の作品例

(三藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか』日本標準、2010年、p.26)

課題：「あなたは、平和を守るための調査や研究をしている政治学者です。ところが……第一次世界大戦、第二次世界大戦と規模が大きく犠牲者も多く出た戦争が二度にわたり起きたため、世界に向けて「なぜ戦争が起きるのか？ どうすれば戦争が防げるのか？」について提言するレポートを作成することになりました。[模擬『国際シンポジウム』で意見交換したうえで、提言レポートをB4用紙一枚にまとめてください。]

全ては平和の為に  
**条約・同盟を有効的に使う!!!**  
58期生 社会科通信 **ワークシート N057**

組 番氏名

### ・戦争の起こる原因。

第二次世界大戦を例にとってみると、この戦争の起こる一歩の糸口はベルサイユ条約であると言える。ベルサイユ条約ではアメリカ、イギリス、フランス、日本(協約国)の利益を優先させ、戦いに敗れたドイツ(同盟国)には1国国家収入の1/10の賠償金等が課せられた。(資料1)その結果世界恐慌によって経済が混乱し、ドイツは財政が苦しくなりヒトラーが台頭してナチスの一党独裁を展開し、ベルサイユ条約の破棄やドイツ国民に民族的な優越感を持たせる為にユダヤ人迫害を行った。(資料2)このように、戦争が終って去った戦国に於いて「条約」というもので不当な扱いを受け、その中で苦しんでいる人々が「もう片手を振って去った国を平和にしたい」という気持ちから、また戦争へのリベンジ、戦争への連鎖反応としてつづいてしまう。(1)直接戦争に繋がっていく。このように、経済的に苦しむドイツを助ける為に出てくる保護政策も、最終的に国民の指示を得てトップでいるツァンカールが「経済的打撃」であるととらえることでも(2)連鎖反応が起こる。この連鎖反応は「条約」から始り、時に「条約」が対等に結ばれた。ベルサイユ条約の「一方が得て一方が損をする」という条件であった。ナチスによるユダヤ人虐殺の背景には、「民族浄化」を絡めている。ユダヤ人は、自分達に神から授けられた民族だ」という意識を持って、もともとナチスによってとらえられておくと、国民の非難と浴びる。政権が倒れるということも、このように政策が行われたことで起こる。

① ドイツ、イギリスの間で結ばれた「宥和政策」と、ドイツ、ソ連の間で「独ソ不可侵条約」でも同じことが言える。宥和政策は、ソ連軍備の拡張を急速に行うドイツに対し、自国を傷付かずに済むという思いから、行動を喰ひ止めることすらできなかった。ドイツの「独ソ不可侵条約」破り(1939年のポーランド侵襲)は、これらの出来事から分かるように、それまで自国に有利にふるまっていた「条約」として、何から自国に不都合になるもの、まず潰れてしまおう。それと人々を、カソリに扱って、いかに自分勝手な事を進めているかの流れに社会全体が、いかにいっている。

② ドイツが「独ソ不可侵条約」を破り第二次世界大戦を始めたのは、「人間の欲」が一番関係していることだ。この「条約・同盟」でも、それが「欲」として、「欲」というのは、決して止まるものではない。これは、行動をいかに、それだけにとらわれない、冷静に物事を考え、処理していくことができていく。その結果、このように大戦争を招くことにはならない。

・平和になる為には……

まず、「条約・同盟」を結ぶ時は、お互い対等な立場で、決して利益を求めずに行われないことだ。何かある時、「条約・同盟」をきっかけにして戦争を起すという「条約・同盟」の扱いは、自分で間違っている。そのこと、それだけの国の指導者はもちろん、一人ひとりの国民にまで知らせておかないといけない。人間の「欲」は誰にも止められないものがある。その「欲」によって人々が支配されてしまうこと、誰とかが避けては通れない。今、私達に要求されていることは、冷静に平和に考えてみることで、それが、どうやって起すか、戦争をこうして振り返ることで、様々な問題が浮上り、その中で、共通している問題点(課題)というものはあるはずだ。「条約・同盟」は、あくまで今の平和な状況をこのままに保ち続けよう。またはお互いの協力し合いからよりよい生活を送る。このように、独自のルールを一緒に守る。このように決いて損得という低レベルの問題を結ばれるもので、それが、「世の中を平和にする為にはどうすればいいか」という問いを一人ひとりが持つ。「条約・同盟」の本質のあり方について真剣に考えていくには、「平和」は実現するであろう。昔の誤りを二度と繰り返さない為には、国際同盟の設立に同じく全力を尽くして、ワルソンの大統領、アメリカのルーズベルト大統領とイギリスのチャーチル大統領との間の大西洋憲章(1941.8)の行動から分かるように、平和に同じく運動を積極的に繰り返す。これが一番大切だ。

ベルサイユ条約 1919年 資料1

ベルサイユ条約の調印

- ドイツは賠償としてザール炭鉱をフランスに譲渡する
- ドイツはポーランド、チェコ、デンマーク、フランス、ベルギー、リトアニアに領土を譲渡する。(領土の6分の1)
- ドイツは海外領土・植民地を全部失う
- ドイツは陸軍兵力10万人、海軍兵力軍艦総トン数10万トン、その他の制限
- 賠償金1320億金マルクを支払う(1921年)

ドイツは本主義国である為、世界恐慌によって工業生産が一気に落ちた。これはドイツの財政と増える苦しいことになった。このように、全協約国に有利にふるまうのではなく、世界の中心を見失ってしまっている。

ドイツは海外領土・植民地を全部失う

ドイツは陸軍兵力10万人、海軍兵力軍艦総トン数10万トン、その他の制限

賠償金1320億金マルクを支払う(1921年)

ドイツは本主義国である為、世界恐慌によって工業生産が一気に落ちた。これはドイツの財政と増える苦しいことになった。このように、全協約国に有利にふるまうのではなく、世界の中心を見失ってしまっている。

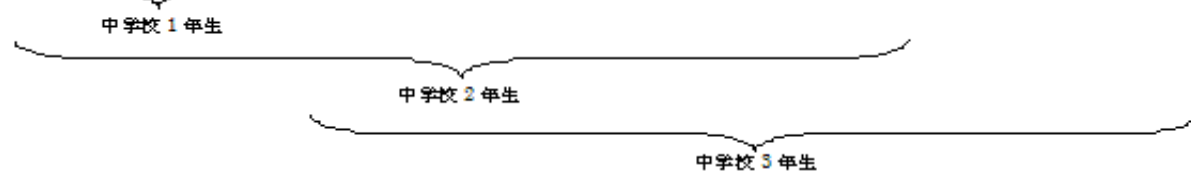
④長期的な学力評価計画：中学校社会科（イメージ）

京都大学 教育課程論Ⅱ  
2013年10月23日 西岡加名恵

※「社会的な思考・判断・表現」の観点に対応して、長期的ルーブリックを用いている。

（西岡加名恵「学力評価計画に対応するポートフォリオの活用」『指導と評価』2010年10月号、p.10）

観点	評価方法	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
社会的な事象への関心・意欲・態度	パフォーマンス課題	[略]				
社会的な思考・判断・表現	パフォーマンス課題 （社会的な事象に関する論説文）	社会的な事象について、政治・経済・文化・人口・地形などの構成要素から事実を述べることはできる。しかし、事実を断片的に羅列しているだけであり、主張と根拠を結びつけることに困難が見られる。基本的な資料の読み取りや作成に困難をきたしている。	社会的な事象について、政治・経済・文化・人口・地形などの構成要素から何らかの根拠に基づき主張を行うことができる。しかし、捉えられている因果関係は、表層的で単純なものにとどまる。基本的な資料を読み取ったり作成したりすることはできる。	社会的な事象について、政治・経済・文化・人口・地形などの構成要素から2つ以上の視点をもつことができる。これらの視点を関連づけつつ分析し、具体的な根拠をあげて明確な主張を述べることができる。複数の資料を関連づけながら論述を行うことができる。	社会的な事象について、政治・経済・文化・人口・地形などの構成要素から2つ以上の視点をもつことができる。これらの視点を総合的に関連付けて分析し、具体的で詳細な根拠をあげて説得力のある主張を組み立てることができる。主張に適した多様な資料を複数関連づけて論述している。	社会的な事象について、政治・経済・文化・人口・地形などの構成要素から3つ以上の視点をもつことができる。これらの視点を総合的に関連付けて多角的に分析し、最適で詳細かつ具体的な根拠をあげて、非常に説得力のある主張を組み立てることができる。最適な資料を複数選択し、多角的に関連づけつつ論述している。
資料活用の技能	実技テスト 筆記テスト	3年間で身につけるべき技能を0～20%習得している。	3年間で身につけるべき技能を20～40%習得している。	3年間で身につけるべき技能を40～60%習得している。	3年間で身につけるべき技能を60～80%習得している。	3年間で身につけるべき技能を80～100%習得している。
社会的な事象についての知識・理解	筆記テスト	3年間で身につけるべき知識・概念を0～20%習得している。	3年間で身につけるべき知識・概念を20～40%習得している。	3年間で身につけるべき知識・概念を40～60%習得している。	3年間で身につけるべき知識・概念を60～80%習得している。	3年間で身につけるべき知識・概念を80～100%習得している。



対応するチェックリストを用意する。